

コロナ国内初感染確認から3年 人々の暮らしや意識はどう変わったのか ～「新型コロナウイルス感染症に関する世論調査（第3回）」の結果から①～

世論調査部 小林利行

NHK放送文化研究所が行った新型コロナウイルス感染症に関する3回目の世論調査の結果について報告する。本稿では、感染が長期化する中で人々の意識や生活にどのような変化があったかを考察し、行動制限の緩和などの「ウィズコロナ」に向けた政策が、これまでコロナ禍のしわ寄せを受けていた女性や自営業者などにどのような影響を及ぼしたかに注目する。主な結果は以下のとおりである。

感染拡大が『不安だ』という人は84%と多いが、時系列では年々減少している。外出回数は2回目調査に比べて増え、特に「散歩や運動」「買い物」の回復が目立つ。

一方で、ストレスを感じる人は少しずつ増加している。過去と同じように女性のほうがストレスを感じる人が多く、「ウィズコロナ」に向けた制限緩和による減少はあまりみられない。

ストレスの原因として「収入が減っていること」を挙げた人は、全体では19%だが、自営業者では50%となっている。これは過去と同様の数字で、現時点では回復の兆しはうかがえない。

感染収束後でも、マスクを「感染拡大前よりは多く着ける」と「できるだけ着ける」が合わせて74%にのぼった。その理由の90%は「衛生上の理由」だが、「素顔をさらしたくないから」という人も7%いて、18～39歳では男女とも16%いた。

新型コロナの法律上の扱いを引き下げることについて『賛成』は約6割で、『反対』を上回った。賛成の理由は「重症化しづらくなっている」などで、一方、反対の理由は「感染しやすくなるから」などだった。

1. はじめに

2020年1月に新型コロナウイルスの感染者が国内で初めて確認されてから3年余り。この間、感染者数は徐々に積み上がって、2023年3月1日現在で延べ3,300万人を超え、死者も7万人以上となっている。

1日の新規感染者数は、2022年2月ごろの「第6波」、そして8月ごろの「第7波」で著しく増加し、この調査の実施時期にかかる「第8波」でも多い状態となったが、2020年4月以降繰り返し出されていた政府の「緊急事態宣言」は、2021年10月以降、出されることはなかつ

た。2022年9月に政府対策本部は「Withコロナに向けた政策の考え方」を決定し、新型コロナウイルスへの対応と社会経済活動の両立をより強固なものとする方針への転換を打ち出した。さらに2023年1月には、新型コロナウイルスの感染法上の扱いを5月8日から季節性インフルエンザ並みに引き下げる方針を決めた。

NHK放送文化研究所世論調査部では、2020年11月から毎年同じ時期に3回にわたって「新型コロナウイルス感染症に関する世論調査」を実施した。

今回の論考では、3年に及ぶコロナ禍によって、人々の意識や行動がどのように変化したか

などについて読み解いていく。

報告は2回に分けて行い、1回目となる本稿では、「不安感」「ストレス」といった心理面や、「外出」「マスクの着用」といった生活面での影響などを中心に取り上げる。

特に、これまでに明らかになった、女性や自営業者などの特定の категорияの人にしわ寄せが及んできたことに関して、最近進んでいる「ウイズコロナ」に向けた動きが、こうした人々にどのように影響しているのかに注目する。

本稿の構成は以下のとおりである。

1. はじめに
2. 新型コロナに対する意識
3. 外出とストレス
4. マスク着用とワクチン接種
5. コロナの法律上の扱い
6. まとめ

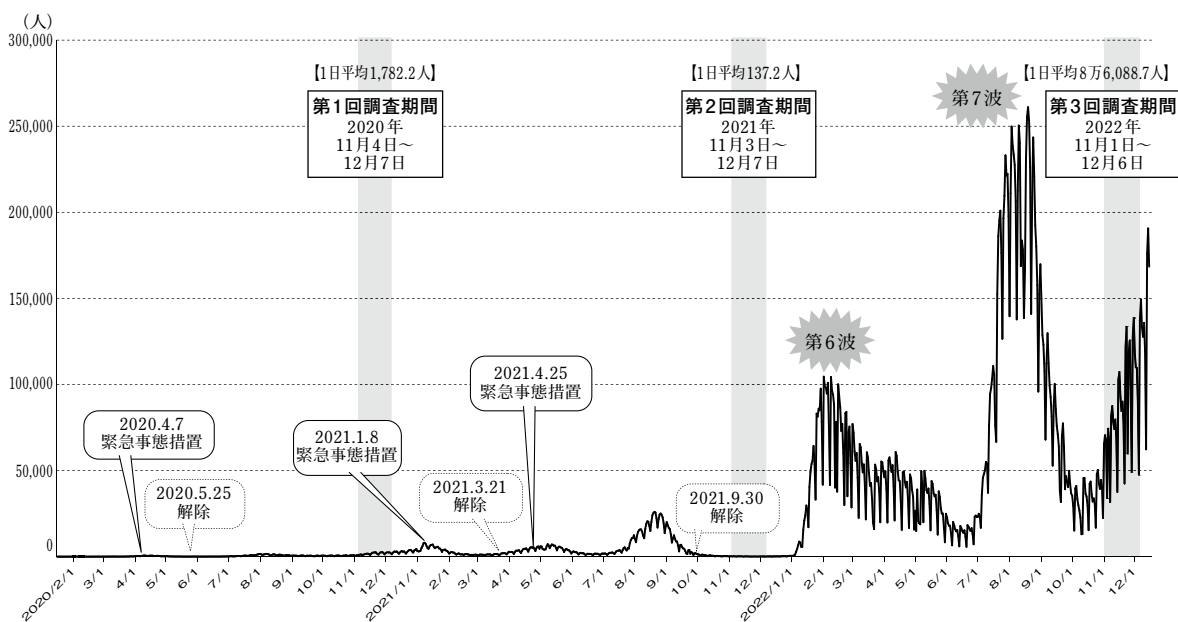
報告の中心となる今回（第3回）の調査の概要は次のとおりである。

- 調査時期：2022年11月1日～12月6日
- 調査方法：郵送法
- 調査相手：全国の18歳以上3,600人（12人×300地点）
- 有効数（率）：2,266人（62.9%）

第1回と第2回の調査概要、そして今回を含めた3回分の単純集計結果とサンプル構成は、本稿の最後に掲載している。

本題に入る前に、3回の各調査時期の1日あたりの新規感染者数について確認しておく。**図1**をみてわかるように、今回は過去2回に比べて、感染者数がかなり多い時期での調査となった。

図1 新型コロナウイルス 全国の新規感染者数の推移（1日あたり）



※厚生労働省まとめ

詳しくみると、▷第1回(2020年11月4日～12月7日)は1日平均1,782.2人、▷第2回(2021年11月3日～12月7日)は1日平均137.2人、▷第3回(2022年11月1日～12月6日)は1日平均8万6,088.7人だった(厚生労働省まとめ)。

また、第1回と第2回は、緊急事態措置の期間にはあたらなかったものの、「不要不急の外出は控えよう」という政府の要請もあり、自由気ままに外出できるという雰囲気ではなかった。

一方今回は、過去2回に比べて新規感染者数が桁違いに多かったものの、行動制限は大幅に緩和されていた。時系列の調査結果をみるときは、このことを頭に入れておきたい。

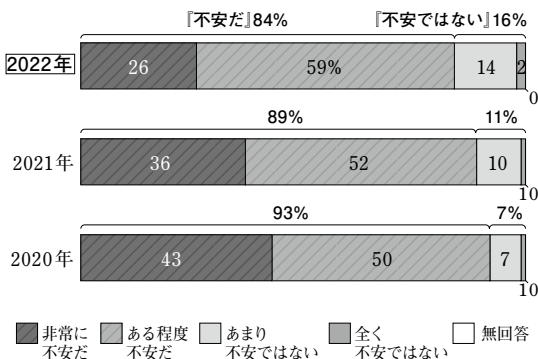
2. 新型コロナに対する意識

(1) 感染拡大への不安感

『不安だ』84%と多いが年々減少

まず、感染拡大にとまなう「不安感」についてみていく。新型コロナウイルスの感染拡大が『不安だ(非常に+ある程度)』と回答した人は84%で、『不安ではない(全く+あまり)』の16%を大きく上回っている¹⁾(図2)。

図2 感染拡大の不安を感じているか



『不安だ』という人は多いものの、時系列でみると、第1回93%→第2回89%→今回84%と年々減少している²⁾。特に「非常に不安だ」は43%→36%→26%と減少幅が大きい。

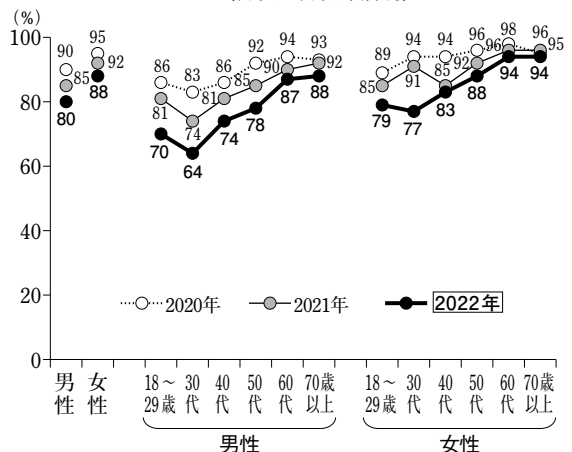
若年層、中年層で『不安だ』減少顕著

『不安だ』と答えた人を年層別の時系列でみると、「不安感」の減少がどういった形で進んでいるかが浮かび上がってくる。

図3をみて明らかなように、18歳から50代までの若年層、中年層での減少が目立つ。特に男性では顕著で、例えば30代は第1回は83%だったが、今回は64%にまで減っている。

年代による不安感の違いが顕著になってきた背景には、変異株の性質の変化があると推察される。神奈川県データを例にみると、30代の入院率は、デルタ株流行時の2021年7～12月は5.9%だったが、オミクロン株(BA.1・2)流行時の2022年1～6月には0.5%だった。一方80代の場合には、デルタ株流行時は59.0%で、オミクロン株(BA.1・2)流行時は29.2%だった³⁾。

図3 感染拡大が『不安だ』(男女・男女年層別)



このように、オミクロン株では全年層で重症化率が下がったものの、若・中年層ではかなり低くなったのに対し、高年層ではそれほど低くならなかった。こうした違いが、高年層に比べて若・中年層の『不安感』の減少幅が大きくなったことに影響したと考えられる。

「不安感」(図3)のもう1つのポイントは、男女差がみられるということである。3回とも男性より女性で多くなっていて、時系列での男性の減少幅が大きいために、年々その差が開く形となり、今回は男性80%、女性88%となっている。

男女差はこの調査の注目点の1つであり、「3(3)ストレスの増減」(P.7~9)でも取り上げる。

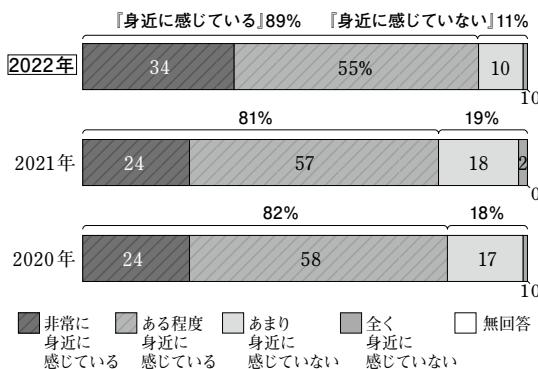
(2) 感染する危険性

感染を『身近に感じている』人は増加

今回の調査では、新型コロナウイルスについて、「不安感」のほかに「感染する危険性」についても尋ねている。

感染する危険を『身近に感じている(非常に+ある程度)』と回答した人は89%と大半を占めている(図4)。

図4 感染する危険を身近に感じているか



『身近に感じている』については、第1回と第2回はどちらも8割強で差はなかったが、今回は9割弱となり両方を上回った。特に「非常に身近に感じている」は、第1回と第2回はどちらも24%だったが、今回は34%と大幅に増加した。

これは、図1(P.3)で確認したように、過去2回に比べて今回の新規感染者数が桁違いに多いことが影響していると思われる。

『身近に感じている』と回答した人を男女別にみると、男性87%、女性90%と、男性より女性が多かった。年層別ではそれほど大きな差はなかった。

3. 外出とストレス

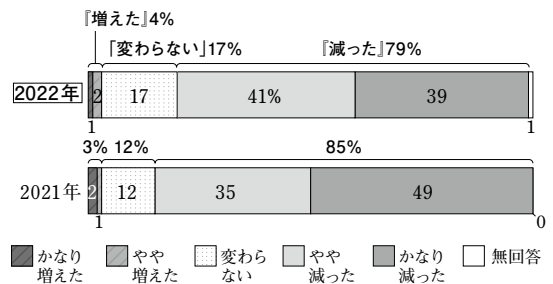
(1) 外出回数の変化

外出回数は感染拡大前へ戻る傾向も

今回の調査時期は、行動制限がほとんどない状態だったが、実際の人々の外出状況はどうだったのだろうか。

図5は、感染が起きる前(2020年1月以前)と比べて外出回数がどう変わったかを尋ねた結果である。外出する回数が『減った(かなり+やや)』と回答した人は79%と8割近いが、第2回調査の85%からは減少している。特に「かな

図5 外出回数の変化



り減った」が49%から39%に大きく減り、「やや減った」が増えたことで、全体に外出抑制の程度が緩んでいることが推察される。同様の傾向として、感染拡大前と「変わらない」は12%から17%に増えている。

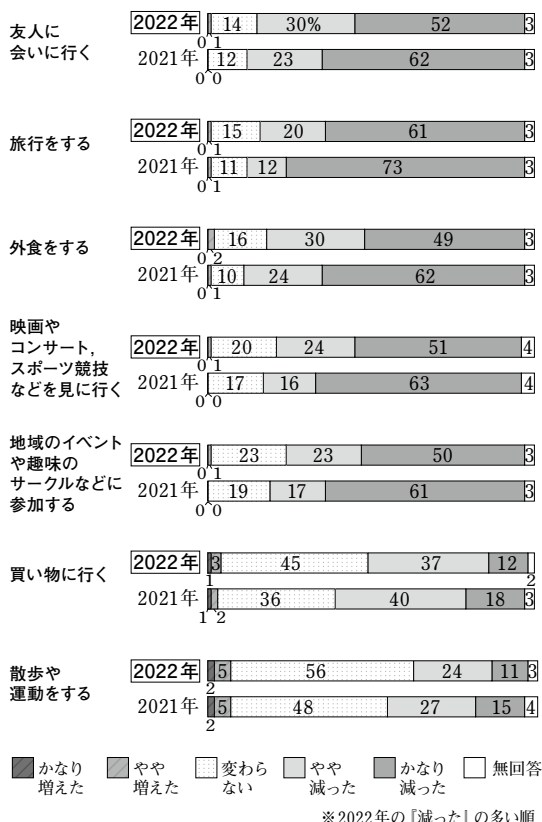
劇的に外出回数が回復しているとは言えないものの、過去に比べれば感染拡大前の状態に近づいていることが読み取れる。

「散歩や運動」「買い物」など回復

それでは、具体的にはどのような外出で変化があったのだろうか。この調査では、7つの事例を挙げて1つ1つ尋ねている(図6)。

8割の人が『減った(かなり+やや)』と答え

図6 具体的な外出回数の変化



たのは、「友人に会いに行く」83%、「旅行をする」80%だった。

一方、「変わらない」が多いのは「散歩や運動をする」(56%)で過半数となった。

ここで注目したいのは、第2回と今回の比較である。『減った』は、「友人に会いに行く」を除いて全項目で減少し、感染拡大前と「変わらない」は、すべての項目で増加している。

このうち「変わらない」に着目すると、「買い物に行く」「散歩や運動をする」「外食をする」の増加幅が大きい。いずれも個人で生活圏内で行える行為が増えていることを示している。他方、人と会う行為はそれほど大きな増加幅にはなっておらず、依然として抑制的になっていることがうかがえる。

(2) 実践している感染対策

感染対策の多くは実践する人が減少

外出が増えていることはわかったが、個人個人の感染対策はどうなっているのだろうか。図7は、自分で実践している感染対策を、選択肢の中からいくつでも答えてもらった結果である。

最も多いのは「マスクや手洗い」の98%、次いで「密閉、密集、密接の回避」の69%となっている。

ここでも注目すべきは過去の結果との比較で、「電車やバスなどの混雑時を避けた利用」と「キャッシュレス決済」を除く、「マスクや手洗い」を含めたほかのすべての項目で減少している。特に「密閉、密集、密接の回避」と「ソーシャル・ディスタンス」が減っている。

図1で確認したように、今回の調査時期の新規感染者数は1日平均約8万6,000人と、過去に比べて桁違いに多かったが、今回の調査結果からは、人々の感染対策に対する緊張感が

図7 実践している感染対策【複数回答】

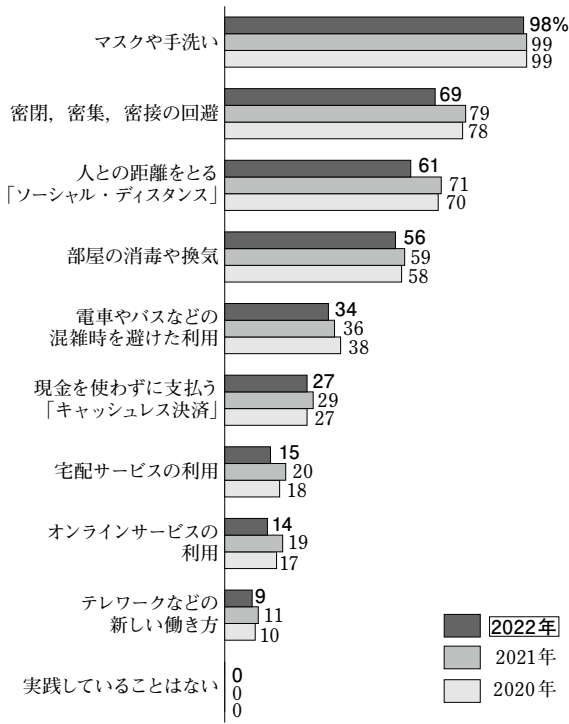
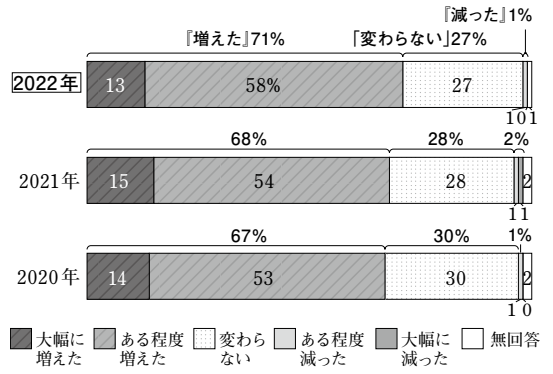


図8 感染拡大前と比べたストレスの変化



71%、「変わらない」という人は27%、「減った（大幅に+ある程度）」という人は1%だった。

『増えた』という人は、第2回と比べると差はなかったが、第1回と比較すると増加していて、2020年から2022年にかけて徐々に増える傾向にあることがわかる。

ストレス『増えた』は女性が多い

ストレスが『増えた』という人を男女別にみると、女性は75%で男性の66%を上回っている（図9）。図3の「不安感」(P.4)も男性より女

以前より薄らいでいるようにみえる。

これは、先の外出の増加という結果からもうかがえることであるが、これまでのコロナとのつきあい方を見直し、無理のない範囲内で感染対策を行いながら、コロナと共存していく「ウィズコロナ」に向けた動きが広がっていることを示すと解釈される。

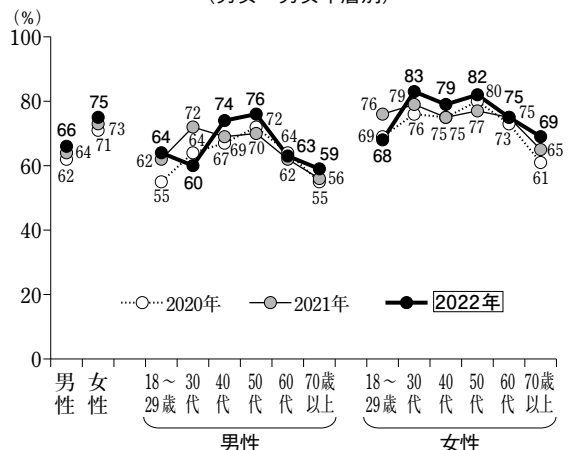
(3) ストレスの増減

ストレスが『増えた』人は徐々に増加

ここまで、「外出」や「感染対策」という行動面をみてきたが、「ストレス」についてはどのような変化が表れているだろうか。

図8は、感染拡大前と比べてストレスを感じることが増えたか減ったかを尋ねた結果である。『増えた（大幅に+ある程度）』という人は

図9 感染拡大前よりストレス『増えた』（男女・男女年齢別）



性で多かったことから、女性のほうが心理的な負担が大きくなっていることが読み取れる。

男女年層別にみると、男性は40・50代で7割を超えていて、女性は30～50代で8割前後となっている。

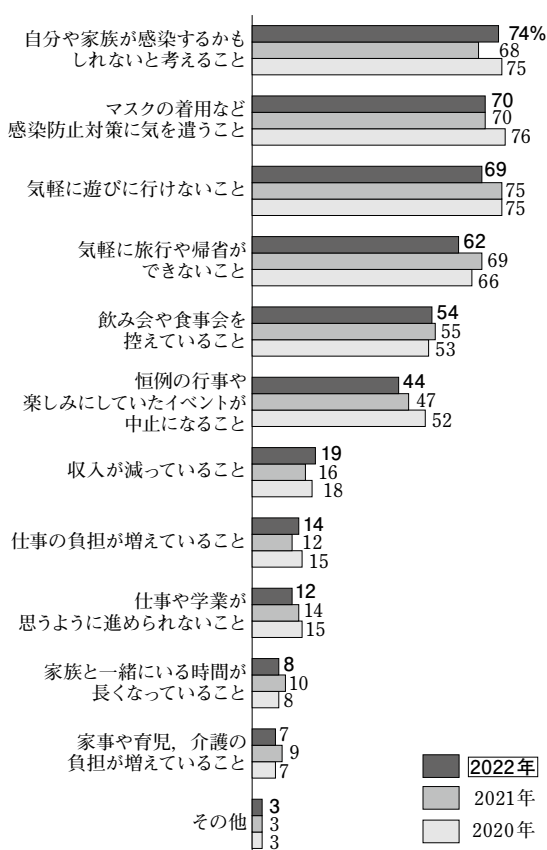
「感染する心配」のストレス増加

この調査では、ストレスが『増えた』という人に、ストレスになっていることを具体的な選択肢を示して複数回答で答えてもらっている(図10)。

最も多いのは「自分や家族が感染するかもしれないと考えること」

図10 ストレスになっていること【複数回答】

(回答者 2022年1,605人/2021年1,542人/2020年1,560人)



※2022年の「ストレスになっていること」の多い順

しれないと考えること」(74%)だった。この時系列をみると、第1回から第2回にかけて減少しているものの、第2回から今回にかけて再び増加している。これはオミクロン株の拡大にもなう感染者数の大幅な増加が影響していると推察される。

一方で、「気軽に遊びに行けないこと」や「気軽に旅行や帰省ができないこと」といった外出関連のストレスは、第2回に比べて減少している。これは、行動制限が緩和された影響だと思われる。

つまり、外出関連のストレスは少なくなったものの、「感染する心配」が増えたことで相殺され、少なくとも過去2年と比べてストレスが減る状況にはなっていないと考えるのが合理的だろう。

さらに、今回は質問項目に入れていないが、第2回調査時には、感染拡大の長期化に関する質問に対して7割の人が『心身の疲れを感じている』と回答している⁴⁾。3年に及ぶコロナ禍の長期化もストレスの高止まりに影響していると推察される。

ストレスを感じる項目に女性の多さ続く

これまでみてきたように、コロナ禍に関する「不安感」も「ストレス」も男性より女性で多かった。このように、本調査で明らかになっているのが男女差である。そこで、具体的なストレス項目を時系列で男女別にみてもみた(表1)⁵⁾。

第2回に比べて女性のみが減少しているのは、「恒例の行事や楽しみにしていたイベントが中止になること」と「家事や育児、介護の負担が増えていること」で、この中で男性との差がなくなっているのは「行事やイベントの中止」だけである。

表1 ストレスになっていること【複数回答】(男女別)

(回答者 2022年1,605人 / 2021年1,542人 / 2020年1,560人)

	(%)	2022年			2021年			2020年		
		全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
自分や家族が感染するかもしれないと考えること	2022年	74	71	76	68	65	70	75	69	78
	2021年	68	65	70	75	69	78	70	68	68
	2020年	75	69	78	70	68	68	76	76	75
	2022年	70	73	68	76	76	75	69	65	73
マスクの着用など感染防止対策に気を遣うこと	2022年	70	73	68	76	76	75	69	65	73
	2021年	70	72	68	76	76	75	69	65	73
	2020年	76	76	75	69	65	73	77	73	77
	2022年	69	65	73	75	73	77	62	57	65
気軽に遊びに行けないこと	2022年	69	65	73	75	73	77	62	57	65
	2021年	75	71	78	66	63	67	69	65	71
	2020年	75	73	77	66	63	67	62	57	65
	2022年	54	56	53	55	57	53	53	56	51
気軽に旅行や帰省ができないこと	2022年	54	56	53	55	57	53	53	56	51
	2021年	55	57	53	53	56	51	44	44	45
	2020年	53	56	51	44	44	45	47	44	50
	2022年	44	44	45	47	44	50	52	48	55
飲み会や食事会を控えていること	2022年	44	44	45	47	44	50	52	48	55
	2021年	47	44	50	52	48	55	44	44	45
	2020年	52	48	55	44	44	45	44	44	45
	2022年	44	44	45	47	44	50	52	48	55
恒例の行事や楽しみにしていたイベントが中止になること	2022年	44	44	45	47	44	50	52	48	55
	2021年	47	44	50	52	48	55	44	44	45
	2020年	52	48	55	44	44	45	44	44	45
	2022年	44	44	45	47	44	50	52	48	55
収入が減っていること	2022年	19	21	17	16	20	13	18	20	16
	2021年	16	20	13	18	20	16	14	16	12
	2020年	18	20	16	14	16	12	12	14	9
	2022年	14	16	12	14	16	12	15	18	13
仕事の負担が増えていること	2022年	14	16	12	14	16	12	15	18	13
	2021年	12	14	11	14	16	12	15	18	13
	2020年	15	17	14	14	16	12	8	6	10
	2022年	12	14	9	14	16	12	8	6	10
仕事や学業が思うように進められないこと	2022年	12	14	9	14	16	12	8	6	10
	2021年	14	16	12	14	16	12	8	6	10
	2020年	15	18	13	14	16	12	7	7	13
	2022年	8	6	10	10	7	13	8	6	10
家族と一緒にいる時間が長くなっていること	2022年	8	6	10	10	7	13	8	6	10
	2021年	10	7	13	10	7	13	7	5	8
	2020年	8	6	10	10	7	13	7	5	8
	2022年	7	5	8	10	7	13	7	5	8
家事や育児、介護の負担が増えていること	2022年	7	5	8	10	7	13	7	5	8
	2021年	9	4	14	10	7	13	7	5	8
	2020年	7	3	10	10	7	13	3	3	3
	2022年	3	3	3	10	7	13	3	3	3
その他	2022年	3	3	3	10	7	13	3	3	3
	2021年	3	2	3	10	7	13	3	3	3
	2020年	3	3	3	10	7	13	3	3	3
	2022年	3	3	3	10	7	13	3	3	3

全体と比べて高い ■ 低い □

このように、行動制限の緩和によると思われる男女差の解消例はむしろ例外的である。

今回の結果を改めてみれば、「その他」以外の11項目中、女性より男性が多いものが2つで、男性より女性が多いものは5つとなっている。第2回調査時は、男性が多い項目は2つ、女性が多い項目は6つだったので、「ウイズコロナ」に向けて以前の生活に近づきつつある中でも、男女差はそのまま続いていると言えよう。

コロナ禍で女性がより大きな影響を受けていることについて、東京大学の白波瀬佐和子教授は、家事が女性に偏っていることなど、もと

もと存在したジェンダー格差の諸問題が顕在化した結果ではないかと2021年に分析している⁶⁾。

今回の調査でも、女性で「家事や育児、介護の負担が増えていること」が前回より減少しているものの、引き続き男性よりは多くなっている。「ウイズコロナ」に向けて「以前に戻る」だけで解決できるものではないのかもしれない。

5割の自営業者が「収入減」でストレス

ストレスになっている項目の中の「収入が減っていること」に注目すると、コロナ禍で誰にしわ寄せが及んでいるかがみえてくる。

表2は、職業別などに分けたものである。今回は全体が19%であるにもかかわらず、自営業者では50%にもものぼっている。

雇用形態別では正規より非正規で多く24%、世帯年収別では年収が低いほど多くなる傾向があり、300万円未満では27%となっている。

さらに注目したいのが時系列の結果である。有意差はないものの、自営業者は第2回41%→今回50%となっている。ウクライナ問題などで原材料費が高騰するなど、ほかの要因も考えられるが、行動制限が緩和されて人出が戻りつつある中でも、自営業者の回復傾向をうかがうことはできない。

表2 「収入が減っていること」がストレス（職業・雇用形態・世帯年収別）

（回答者 2022年1,605人 / 2021年1,542人 / 2020年1,560人）

	全体 (%)	職業					雇用形態		世帯収入				
		自営業者	販売サービス	技能作業	事務技術	経営管理*	正規雇用	非正規雇用	300万未満	300～600	600～900	900万以上	
収入が減っていること	2022年	19	50	23	26	12	10	15	24	27	17	16	9
	2021年	16	41	26	28	9	15	13	24	24	18	13	7
	2020年	18	42	28	31	14	18	18	25	21	20	16	12

全体と比べて高い■ 低い□

※「経営管理」は人数が少ないため参考値（経営管理2022年72人/2021年60人/2020年62人）

自営業者のほかにも、非正規雇用で第2回24%→今回24%、世帯年収300万円未満で第2回24%→今回27%となるなど、一連の調査結果からは、コロナ禍では一部の属性の人たちにしわ寄せが及んでいて、それが解消される見通しは今のところ立っていないことが読み取れる。

「基本的には外すが、感染拡大前よりは着ける機会を多くする」が47%と半数近くを占め、「できるだけ着けたままにする」が27%、「感染拡大が起きる前（2020年1月以前）のように外す」が23%となった。

この結果を、男女・男女年層別にみたのが図12である。ここでは、「できるだけ着けたままにする」の年層別に注目したい。

緩やかではあるが、男女とも若くなるほど多くなる傾向がある。コロナに対する不安感は、高齢になるほど高い傾向があったので、矛盾しているようにもみえるが、その理由の一端は、

4. マスク着用とワクチン接種

(1) 感染収束後のマスク着用

「着ける機会を多くする」5割弱

政府は、2023年3月13日以降、マスクの着用は基本的に個人の判断に委ねるとしたが、人々は実際にどう対処するのだろうか。

感染拡大が収束して、屋内や人混みでマスクの着用が求められるなくなったとしたらどうするかを尋ねた結果が図11である。

図11 感染拡大収束後にマスクどうするか

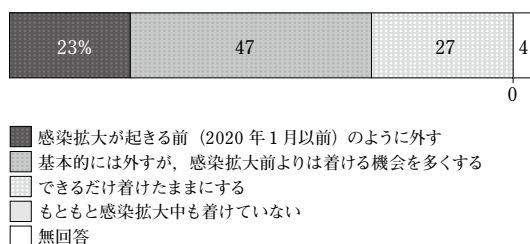
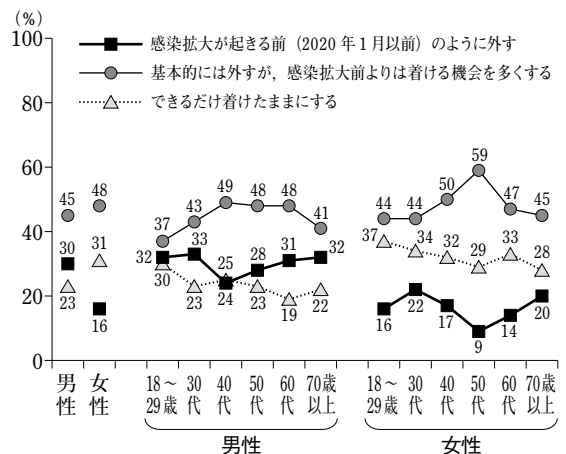


図12 感染拡大収束後にマスクどうするか（男女・男女年層別）



次の結果をみるとおぼろげながら浮かび上がってくる。

「素顔をさらしたくないから」という人も

図13は、「着ける機会を多くする」と「できるだけ着けたままにする」と回答した人に、その理由を尋ねた結果である。

「感染症対策など衛生上の理由から」が90%と圧倒的多数を占めた。ただし、「素顔をさらしたくないなど見た目の理由から」も7%いた。

図13 収束後もマスク着けるのはなぜか

(回答者 1,671人)

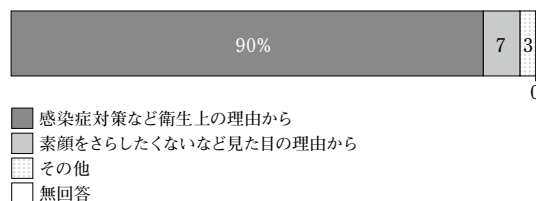
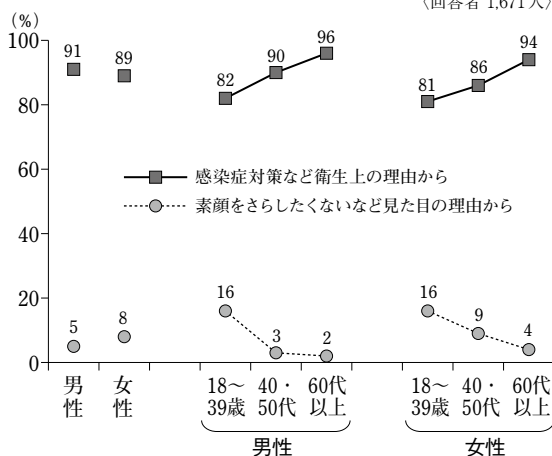


図14は、この結果を男女・男女年層別にみたものである。年層別に注目すると、男女とも

図14 収束後もマスク着けるのはなぜか

(男女・男女年層別)

(回答者 1,671人)



18~39歳の16%の人が「素顔をさらしたくないから」と回答している。これは、全体分母にすると男性11%、女性13%となり、18~39歳の男女の10人に1人強は、顔を隠すためにマスクを着け続けたいという意向を示していることになる。

コロナ禍をきっかけとした、今後のマスクの思わぬ使い道が、今回の調査結果からかいま見られた。

(2) ワクチン接種

今後のワクチン「受けたくない」が3割

マスクの着用や外出の抑制などと並んで、コロナ禍対策として多くの人に関わりがあるのがワクチン接種である。

厚生労働省は、今後も何らかの形で新型コロナのワクチン接種を継続する方針だが、今回の調査では、今後のワクチン接種の希望についても聞いている。

図15は、今後もワクチン接種を勧められたらどうするかと尋ねた結果である。「受けたい」という人が約7割を占めたが、「受けたくない」という人も3割いた。

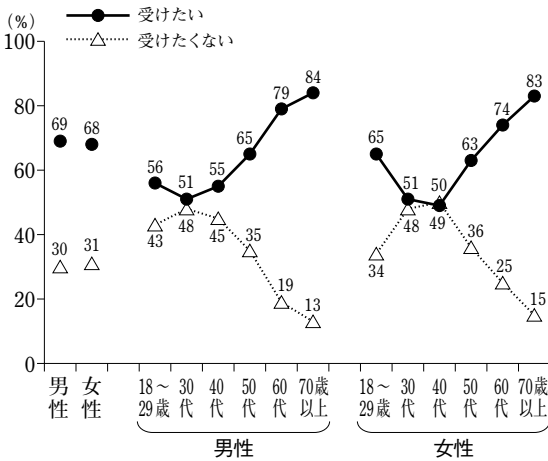
図15 今後もワクチンを受けたいか



図16は、それを男女・男女年層別にみた結果である。「受けたくない」の年層別に注目すると、男女とも30・40代という、いわゆる働き盛りで多くなっているのがわかる。

今回の調査では、受けたくない理由は尋ね

図 16 今後もワクチンを受けたいか
(男女・男女年齢別)



ていないが、第2回調査で、1回も接種しておらず今後もするつもりがないという人に、その理由を複数回答で聞いたところ、「副反応が心配だから」が68%と最も多く、次いで「効果がよく分からないから」が39%となった⁷⁾。

また、東京都が都民に対して2022年10月に行ったアンケート調査によると、1回も接種しておらず、「今後もしない」「今後どうするかわからない」と回答した人にその理由を複数回答で尋ねたところ、「副反応が心配だから」が37.2%、「効果に疑問があるから」が33.1%となった⁸⁾。さらに、実際の副反応として、あるメーカーのワクチンの2回目の接種後に37.5度以上の発熱があったのは若い人ほど多く、30代では45%程度、40代では40%程度にのぼったというデータもある⁹⁾。

働き盛りで「受けたくない」人が多いという今回の調査結果も考え合わせると、主に、仕事に差し支えるかもしれない「副反応への心配」と「効果への疑問」が、ワクチン接種へのためらいを生んでいると考えるのが自然ではないだろうか。

5. コロナの法律上の扱い

(1) 法的位置づけを下げることの賛否

下げること『賛成』約6割

政府は、大型連休開けの2023年5月8日に、新型コロナの感染法上の位置づけを、結核などと同じ扱いで感染者への入院勧告などができる「2類相当」から、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げようとしている。

このことの賛否を尋ねたのが図17である。『賛成(どちらかといえば賛成を含む)』が59%となり、『反対(どちらかといえば反対を含む)』の40%を上回った。

引き下げに『賛成』という人を、男女・男女

図 17 法的位置づけを下げることの賛否

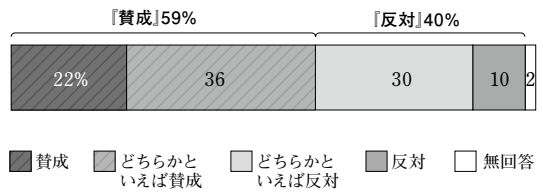
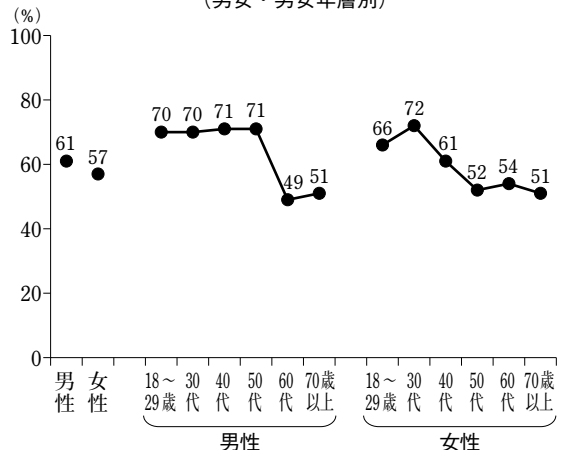


図 18 法的位置づけを下げることについて『賛成』
(男女・男女年齢別)



年層別にみたのが図18である。まず、男女別をみると、男性61%、女性57%と、男性のほうが多くなっている。年層別では、男性では若・中年層で多く高年層で少ないという傾向がはっきりと出ている。女性では40代以下で多めになっている。

世帯年収高い人ほど『賛成』

さらに『賛成』という人を、職業別・雇用形態別・世帯年収別にみると図19のようになる。

職業別では、「事務・技術職」「経営者・管理者」で全体より多くなっていて、特に「経営者・管理者」では8割近くにのぼっている。雇用形態別では、正規雇用が非正規雇用より多くなっている。世帯年収別では、年収が高くなるほど多くなる傾向があり、「600～900万円未満」と「900万円以上」では7割以上となっている。

おおまかに言えば、会社で高い地位にある人や年収の高い人のほうが、「2類相当」から「5

類」への引き下げを望んでいると言えよう。

『経済活動回復』を望む人ほど『賛成』

コロナの法的位置づけを下げることの賛否の結果と、単純集計表の第44問(P.23)の「感染対策と経済活動の回復のどちらに力を入れるべきか」という質問の結果の関連性をみでみる。第44問の結果は、『感染対策』39%、『経済活動』60%であったが、図20は、この結果と法的位置づけの賛否の結果をクロス集計したものである。

『感染対策に力を入れるべき』と回答した人では『反対』が6割近くになっている。一方、『経済活動の回復に力を入れるべき』と回答した人では、『賛成』が7割以上にのぼる。経済活動の回復を願う人ほど引き下げに賛成する人が多くなっている。

図20 法的位置づけを下げることに『賛成』
（『感染対策重視』『経済回復重視』別）

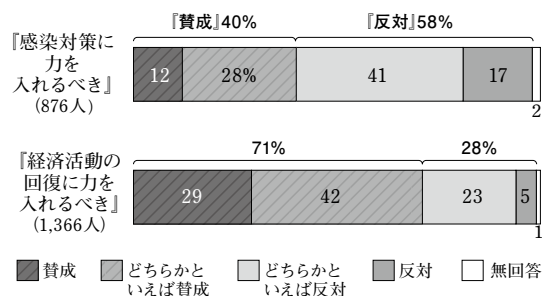
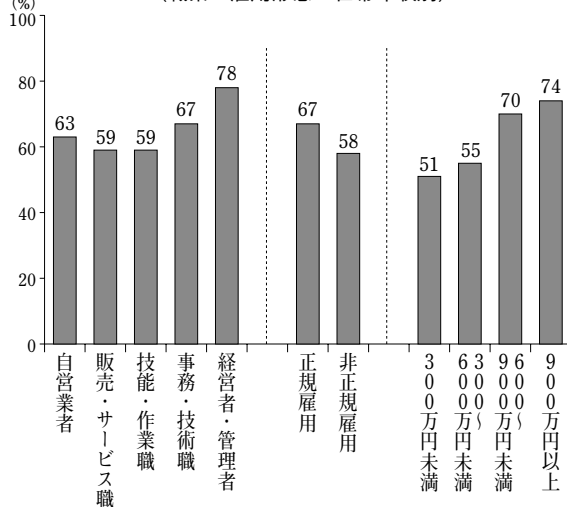


図19 法的位置づけを下げることに『賛成』
（職業・雇用形態・世帯年収別）



(2) 引き下げ賛否の理由

『賛成』理由は「重症化しづらい」など

コロナの法的位置づけを下げることに『賛成』と回答した人に対して、その理由を4つの選択肢で聞いたのが図21である。

「感染しても重症化しづらくなっているから」

図 21 法的位置づけを下げること『賛成』理由

(回答者 1,332人)



- 経済を回さないと困るから
- 規制を受けずに自由に行動したいから
- 感染しても重症化しづらくなっているから
- 医療機関の負担が軽くなって必要な時に治療が受けやすくなるから
- その他
- 無回答

が30%、「医療機関の負担が軽くなって必要な時に治療が受けやすくなるから」が29%と同率1位となった。「経済を回さないと困るから」は22%であった。感染症対策に関わる質問だけに、重症化率や医療機関への影響を理由に挙げる人が多かった。

若年層で重症化率が低くなっている一方で、感染しても医療機関での受診が困難な状況が続いている現状を反映した結果だと推察される。

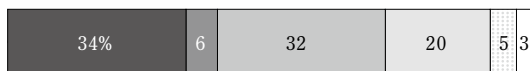
『反対』理由は「感染しやすくなる」など

一方、コロナの法的位置づけを下げることに『反対』と回答した人の理由が図 22 である。

「規制が緩くなることで感染しやすくなるから」が34%、「重症化率や致死率が季節性インフルエンザより高いとみられるから」が32%と

図 22 法的位置づけを下げること『反対』理由

(回答者 899人)



- 規制が緩くなることで感染しやすくなるから
- 今の位置づけでもあまり困ることはないから
- 重症化率や致死率が季節性インフルエンザより高いとみられるから
- 公費で治療やワクチンを受けられなくなる恐れがあるから
- その他
- 無回答

同率1位となった。感染の拡大や重症化の不安が拭えないことが読み取れる。なお、「公費で治療やワクチンを受けられなくなる恐れがあるから」という人も20%いた。

6. まとめ

これまで述べてきた中の主な項目をまとめると以下ようになる。

- ▶ 感染拡大が『不安だ』という人は84%と多いが、年々減少している。減少は若・中年層で顕著である。男性より女性で多い傾向は変わらない。
- ▶ 2021年に比べて外出回数は増えていて、特に「散歩や運動」や「買い物」の回復が目立つ。「3密」や「ソーシャル・ディスタンス」を気にする人も前回より減っている。
- ▶ ストレスを感じる人は少しずつ増えている。外出に関するストレスは減少しているものの、感染者数の増加にともなう「感染する心配」が増えていることやコロナ禍の長期化などが影響しているとみられる。男性より女性で多い傾向は変わらない。
- ▶ 具体的なストレス項目をみても、多くの項目で女性のほうが多いままである。現時点では、「ウイズコロナ」への動きは男女差解消にあまりつながっていないとみられる。
- ▶ ストレスの原因として「収入が減っていること」を挙げた人は、全体では19%だが、自営業者では50%、世帯年収300万円未満では27%だった。いずれも過去と同様の数字で、今のところ回復の兆しはうかがえない。
- ▶ 感染収束後でも、マスクを「感染拡大前よりは多く着ける」と「できるだけ着ける」が合わせて74%にのぼった。その理由の90%は

「衛生上の理由」だが、「素顔をさらしたくない」という人も7%いて、18～39歳では男女とも16%いた。

- ▶今後のワクチン接種に関して30%が「受けたくない」と回答した。男女とも30・40代の働き盛りで多い。
- ▶新型コロナの法律上の扱いを引き下げることについて『賛成』は59%で、『反対』を上回った。賛成の理由は「重症化しづらくなっている」など、反対の理由は「感染しやすくなるから」などだった。

第3回新型コロナ調査の1回目の分析は、心理的な側面や日々の生活でのコロナ禍の影響を中心に取上げた。調査結果の全体的な傾向からは、コロナと共存しながら以前の生活に戻ろうとする「ウイズコロナ」への動きが進んでいることが読み取れた。しかし、自営業者などしわ寄せを受けたカテゴリーの人たちの回復傾向はみられず、人出が増えたからといって、すぐに以前の状態に戻っているわけではない。今後、政策として「ウイズコロナ」を進めるうえで、取り残されている人がいないかという視点も必要だろう。

2回目の分析は、今後の『放送研究と調査』に掲載する予定である。ここでは、感染症対策のあり方をはじめ、コロナ禍での働き方や、感染拡大によって注目されることになったデジタル化（オンライン化）についての意識などを取り上げる。

(こばやし としゆき)

注:

- 1) 選択肢を囲う『』は複数の選択肢を合算している場合、「」は単独の場合を示している。なお、『』の%は各選択肢の%を単純に足し上げたものではなく、各選択肢の実数を足し上げて再計算したものである。
- 2) 互いに独立な%の検定（信頼度95%）を行った結果（以下同様）。
- 3) 「データで見る新型コロナウイルスの特性の変化」（神奈川県）
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/covid19/comparison.html>
- 4) 小林利行・村田ひろ子「コロナ禍は暮らしや意識をどう変えたのか」『放送研究と調査』2022年7月号
- 5) 全体に対する各層の特徴をみるために、該当する層と、全体から該当する層を除いた残りの層で、「互いに独立な%の検定」を行った結果（以下同様）。

$$z = \frac{|p_1 - p_2|}{\sqrt{p_1(100 - p_1) \left(\frac{1}{n_2} - \frac{1}{n_1}\right)}}$$

- ・ サンプル数：(全体) n_1 、(一部) n_2
- 割合 (%)：(全体) p_1 、(一部) p_2
- ・ $z = 1.960$ 以上なら信頼度 95% で有意差あり

- 6) 白波瀬佐和子「コロナ禍の女性への影響と今後の課題」(東京都社会福祉審議会公開研究会(第2回)資料, 2021年9月24日)
https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kiban/shisaku/shingi_gijiroku/22ki/02kenkyu.files/shirahaseiinn.pdf
- 7) 小林利行・村田ひろ子「コロナ禍は暮らしや意識をどう変えたのか」『放送研究と調査』2022年7月号
- 8) 東京都「東京i CDCリスクコミュニケーションチームによる都民アンケート調査の結果について」(2022年10月22日)
<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2022/10/27/24.html>
- 9) 厚生労働省「新型コロナワクチンの初回接種後の健康状況調査」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_kenkoujoukyoutyousa.html

新型コロナウイルス感染症に関する世論調査（第3回）単純集計結果

調査の概要

	2020年	2021年	2022年
調査目的	新型コロナウイルス感染症に関する不安感やストレスの増減、コロナ禍による生活や意識の変化、オンライン化の進展や政府の対応に対する評価などを明らかにする。		
調査期間	2020年11月4日（水）～ 12月7日（月）	2021年11月3日（水）～ 12月7日（火）	2022年11月1日（火）～ 12月6日（火）
調査方法	郵送法		
調査対象	全国の18歳以上（外国人を含む）		
調査相手	住民基本台帳から層化無作為2段抽出 3,600人（12人×300地点）		
有効数（率）	2,331人（64.8%）	2,253人（62.6%）	2,266人（62.9%）

※調査相手抽出手順の詳細はNHK放送文化研究所のウェブサイトを参照 <https://www.nhk.or.jp/bunken/yonon/nhk/process/sampling.html>

※表中の不等号(<>)は、それぞれ開いているほうが有意に高いことを示す(信頼度95%)。
2022年の右側についている不等号は、2022年と2020年の検定結果である。

—新型コロナに対する不安—

第1問 あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大について、どのくらい不安を感じていますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

	2020年	2021年	2022年(%)
1. 非常に不安だ	42.7	36.3	25.7 >
2. ある程度不安だ	49.9	52.4	58.5 <
3. あまり不安ではない	6.5	9.6	13.5 <
4. 全く不安ではない	0.7	1.4	2.0 <
5. 無回答	0.2	0.4	0.3

—感染する危険—

第2問 あなたは、新型コロナウイルスに感染する危険を、どの程度身近なこととして感じていますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

	2020年	2021年	2022年(%)
1. 非常に身近に感じている	23.7	23.5	33.5 <
2. ある程度身近に感じている	58.4	57.2	55.1 >
3. あまり身近に感じていない	16.6	17.5	10.2 >
4. 全く身近に感じていない	1.2	1.5	1.0
5. 無回答	0.1	0.3	0.3

—変異ウイルスに対する不安—

第3問 あなたは、感染力が強まるなどウイルスの性質が変化した「変異ウイルス」について、どのくらい不安を感じていますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

	2021年	2022年(%)
1. 非常に不安だ	47.1	35.3 >
2. ある程度不安だ	44.4	51.8 <
3. あまり不安ではない	7.3	10.8 <
4. 全く不安ではない	0.8	1.7 <
5. 無回答	0.4	0.4

—変異ウイルスで知りたい情報（複数回答）—

第4問 あなたが、「変異ウイルス」について知りたい情報は何か。次の中から、あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

	2021年	2022年(%)
1. 感染力の強さ	75.7	70.9 >
2. 重症化率や致死率	59.4	65.2 <
3. 海外の感染状況	18.5	12.5 >
4. 国内の感染状況	57.8	49.4 >
5. ワクチンの効果	77.1	65.7 >
6. 感染を予防する方法	42.6	36.6 >
7. 子どもに感染しやすいかどうか	23.3	18.1 >
8. その他	3.2	3.3
9. 特に知りたい情報はない	1.8	2.6
10. 無回答	0.3	0.3

—生活への影響—

第5問 新型コロナウイルスの感染拡大による生活への影響についてお聞きします。あなたの生活には、現在、どの程度影響がありますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

	2021年	2022年(%)
1. 大いに影響がある	24.5	25.3
2. ある程度影響がある	49.3	49.8
3. あまり影響はない	23.8	22.1
4. 全く影響はない	2.0	2.4
5. 無回答	0.5	0.4

—具体的な生活への影響（複数回答）—

第6問 具体的には、現在、どのような影響があるでしょうか。次の中から、あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

	2021年	2022年(%)
1. 収入が減って生活が苦しい	14.6	14.7
2. 仕事や学業がとどこおっている	10.6	9.5
3. 仕事の負担が増えている	15.8	20.1 <
4. 家事の負担が増えている	10.2	8.6
5. 子育ての負担が増えている	4.7	4.2

- 6. 介護の負担が増えている 3.9 4.5
- 7. 一日中、家で過ごすことが多い39.5 >31.9
- 8. 親や友人など会いたい人に会えない61.3 >54.9
- 9. イライラすることが多い16.4 >13.3
- 10. 気持ちが落ち込むことが多い17.0 15.9
- 11. よく眠れない 7.1 7.2
- 12. その他9.8 10.2
- 13. 特に影響はない 8.4 <11.7
- 14. 無回答 0.5 0.7

一外出回数の変化一

第7問 新型コロナウイルスの感染が起きる前（2020年1月以前）と現在を比べて、あなたの外出する回数は変わりましたか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- | | 2021年 | 2022年(%) |
|-----------|-------|----------|
| 1. かなり増えた | 1.6 | 1.3 |
| 2. やや増えた | 1.4 | < 2.3 |
| 3. 変わらない | 12.3 | < 16.5 |
| 4. やや減った | 35.4 | < 40.7 |
| 5. かなり減った | 49.2 | > 38.6 |
| 6. 無回答 | 0.2 | < 0.7 |

一具体的な変化一

第8問 具体的には、どのような外出で変化があったでしょうか。現在の状況について、a～gのそれぞれについて、あてはまるものに、1つずつ○をつけてください。

	2021年	2022年 (%)						
		1. 増えたり	2. やや増えた	3. 変わらない	4. やや減った	5. 減ったり	6. 無回答	
a. 買い物に行く	2021年	0.8	2.4	36.0	40.4	17.8	2.7	
	2022年			△	▽	▽		
b. 外食をする	2021年	1.0	2.6	45.1	36.9	12.1	2.2	
	2022年		△	△	△	▽		
c. 散歩や運動をする	2021年	0.4	0.8	10.2	23.9	61.8	2.8	
	2022年		0.4	1.7	16.4	29.9	49.0	2.6
d. 友人に会いに行く	2021年	1.7	5.1	47.8	26.5	15.3	3.6	
	2022年			△	▽	▽		
e. 地域のイベントや趣味のサークルなどに参加する	2021年	0.3	0.4	11.6	23.1	61.5	3.1	
	2022年			△	△	▽		
f. 映画やコンサート、スポーツ競技などを見に行く	2021年	0.1	0.7	14.3	30.1	52.4	2.5	
	2022年			0.3	19.1	16.6	60.5	3.2
g. 旅行をする	2021年	0.2	0.7	22.9	23.3	49.6	3.2	
	2022年			0.3	16.5	16.2	62.9	3.8
g. 旅行をする	2021年	0.2	0.6	20.3	24.4	50.6	3.9	
	2022年			0.3	0.6	11.0	11.6	73.1
g. 旅行をする	2021年	0.3	0.6	11.0	11.6	73.1	3.4	
	2022年			0.3	1.0	15.2	19.9	60.5

一新しい生活様式（複数回答）一

第9問 日常生活におけるさまざまな感染対策の中で、あなたご自身が実践していることはありますか。また、日本の社会に定着すると思うものはありますか。それぞれについて、あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

- (1) あなたご自身が実践していること
- | | 2020年 | 2021年 | 2022年 (%) |
|----------------------|-------|----------|-----------|
| 1. マスクや手洗い | 98.9 | 99.0 | > 98.2 > |
| 2. 部屋の消毒や換気 | 58.4 | 59.0 | > 55.6 |
| 3. 密閉、密集、密接の回避 | 77.7 | 78.9 | > 69.4 > |
| 4. 人との距離をとる | | | |
| 「ソーシャル・ディスタンス」 | 70.0 | 70.9 | > 60.9 > |
| 5. 電車やバスなどの混雑時を避けた利用 | 37.6 | 35.7 | 33.8 > |
| 6. テレワークなどの新しい働き方 | 9.5 | < 11.4 > | 8.6 |
| 7. オンラインサービスの利用 | 17.2 | 18.8 | > 13.5 > |
| 8. 宅配サービスの利用 | 18.3 | 19.6 | > 14.6 > |
| 9. 現金を使わずに支払う | | | |
| 「キャッシュレス決済」 | 26.6 | 29.1 | 26.7 |
| 10. 実践していることはない | 0.3 | 0.4 | 0.3 |
| 11. 無回答 | 0.1 | 0.0 | < 0.3 |

(2) 日本の社会に定着すると思うもの

- | | 2020年 | 2021年 | 2022年 (%) |
|----------------------|-------|----------|-----------|
| 1. マスクや手洗い | 90.9 | 89.2 | > 84.9 > |
| 2. 部屋の消毒や換気 | 52.5 | 50.3 | > 42.5 > |
| 3. 密閉、密集、密接の回避 | 50.5 | > 40.7 > | 35.6 > |
| 4. 人との距離をとる | | | |
| 「ソーシャル・ディスタンス」 | 45.4 | > 37.6 > | 32.4 > |
| 5. 電車やバスなどの混雑時を避けた利用 | 25.4 | > 18.6 | 17.0 > |
| 6. テレワークなどの新しい働き方 | 50.9 | > 44.3 | 45.3 > |
| 7. オンラインサービスの利用 | 43.6 | 41.1 | > 37.4 > |
| 8. 宅配サービスの利用 | 43.0 | 40.5 | > 34.5 > |
| 9. 現金を使わずに支払う | | | |
| 「キャッシュレス決済」 | 46.0 | 45.1 | 44.1 |
| 10. 定着すると思うものはない | 1.6 | 1.7 | 2.3 |
| 11. 無回答 | 0.4 | 0.2 | < 0.8 |

一マスクをしていない人が気になるか一

第10問 あなたは、外出したときに、マスクを着用していない人を見かけたら、どのように感じますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- | | 2020年 | 2021年 | 2022年 (%) |
|--------------|-------|----------|-----------|
| 1. 非常に気になる | 36.3 | < 43.9 > | 31.8 > |
| 2. やや気になる | 51.0 | > 45.7 < | 50.8 |
| 3. あまり気にならない | 11.0 | > 8.1 < | 13.9 < |
| 4. 全く気にならない | 1.6 | 2.1 | < 3.2 < |
| 5. 無回答 | 0.2 | 0.2 | 0.3 |

—マスク着用で他人の目が気になるか—

第11問 マスクの着用について、あなたご自身は、他人の目がどの程度気になりますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

	2020年	2021年	2022年 (%)
1. 非常に気になる	42.8	44.6	>39.3 >
2. やや気になる	36.4	>30.6	<38.5
3. あまり気にならない	14.2	<17.2	16.3 <
4. 全く気にならない	6.4	7.3	> 5.6
5. 無回答	0.2	0.3	0.4

—感染収束後のマスク着用—

第12問 感染拡大が収束して、屋内や人混みでマスクの着用が求められなくなったとしたら、あなたはどうしますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

	2022年 (%)
1. 感染拡大が起きる前（2020年1月以前）のように外す	22.6
2. 基本的には外すが、感染拡大前よりは着ける機会を多くする	46.5
3. できるだけ着けたままにする	27.2
4. もともと感染拡大中も着けていない	0.1
5. 無回答	3.6

—収束後もマスク着け続ける理由—

【第12問で「2, 3」を選んだ方にお聞きします】

第13問 それは主にどんな理由からですか。次の中から、最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

	2022年 (%)
1. 感染症対策など衛生上の理由から	89.8
2. 素顔をさらしたくないなど見た目の理由から	6.7
3. その他	3.3
4. 無回答	0.2

(回答者=1,671人)

—自分の家事時間の変化—

第14問 新型コロナウイルスの感染が拡大する前と比べて、あなたが家事をする時間に変化はありましたか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

	2021年	2022年 (%)
1. 増えた	24.4	>20.8
2. 変わらない	67.1	<70.1
3. 減った	1.3	1.7
4. 家事はしていない	6.5	6.2
5. 無回答	0.7	1.1

—配偶者の家事時間の変化—

第15問 それでは、あなたの配偶者（パートナーを含む）が家事をする時間については、どうでしょうか。あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。（配偶者がいらっしやらない方は、「5. 配偶者はいない」に○をつけてください）

	2021年	2022年 (%)
1. 増えた	13.1	13.5
2. 変わらない	49.1	49.8

3. 減った	1.3	1.5
4. 家事はしていない	4.1	5.0
5. 配偶者はいない	31.4	29.4
6. 無回答	0.9	0.8

—収入・支出の増減—

第16問 新型コロナウイルスの感染拡大が起きたことによって、あなたの収入や支出に変化はありましたか。aとbそれぞれについて、あてはまるものに、1つずつ○をつけてください。

a. 収入

	2020年	2021年	2022年 (%)
1. 大幅に減った	9.5	8.0	7.9
2. やや減った	20.8	21.9	21.1
3. 変わらない	65.4	65.7	68.0
4. やや増えた	1.8	1.6	1.9
5. 大幅に増えた	0.3	0.4	0.3
6. 無回答	2.3	2.4	> 0.8 >

b. 支出

	2020年	2021年	2022年 (%)
1. 大幅に減った	3.3	3.2	> 1.9 >
2. やや減った	20.0	21.3	>14.9 >
3. 変わらない	43.1	45.0	45.2
4. やや増えた	27.2	24.9	<31.7 <
5. 大幅に増えた	4.3	3.4	< 5.4
6. 無回答	2.2	2.1	> 0.9 >

—ストレスは増えたか—

第17問 あなたは、新型コロナウイルスの感染が拡大する前と比べて、ストレスを感じることが増えましたか。それとも、減りましたか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

	2020年	2021年	2022年 (%)
1. 大幅に増えた	13.9	14.9	13.2
2. ある程度増えた	53.0	53.5	<57.7 <
3. 変わらない	29.9	28.4	27.0 >
4. ある程度減った	1.2	1.0	1.1
5. 大幅に減った	0.2	< 0.6	0.3
6. 無回答	1.8	1.6	> 0.9 >

—具体的なストレス要因（複数回答）—

【第17問で「1, 2」を選んだ方にお聞きします】

第18問 具体的には、どのようなことがストレスになっているのでしょうか。次の中から、あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

	2020年	2021年	2022年 (%)
1. マスクの着用など感染防止対策に気を遣うこと	75.6	>70.0	70.2 >
2. 自分や家族が感染するかもしれないと考えること	74.6	>67.8	<73.6
3. 家族と一緒にいる時間が長くなっていること	8.3	10.2	8.3
4. 家事や育児、介護の負担が増えていること	7.2	< 9.3	> 6.9

- 5. 気軽に遊びに行けないこと …… 75.4 75.0 >69.3 >
 - 6. 気軽に旅行や帰省が
できないこと …………… 65.5 68.5 >61.8 >
 - 7. 飲み会や食事会を
控えていること …………… 53.1 54.8 54.3
 - 8. 恒例の行事や
楽しみにしていたイベントが
中止になること …………… 52.0 >47.0 44.4 >
 - 9. 仕事や学業が思うように
進められないこと …………… 15.1 13.7 11.6 >
 - 10. 仕事の負担が増えていること … 15.0 >12.2 13.9
 - 11. 収入が減っていること …………… 17.6 16.4 18.5
 - 12. その他 …………… 2.6 2.7 2.9
 - 13. 無回答 …………… 0.6 0.4 > 0.0 >
- (回答者=1,560人 1,542人 1,605人)

—感染拡大であてはまること—

第19問 今回の新型コロナウイルスの感染拡大の影響に関して、あなたはa～dのことがどの程度あてはまりますか。それぞれについて、1つずつ○をつけてください。

	(%)	1. かなりあてはまる	2. ある程度あてはまる	3. あまりあてはまらない	4. ほとんどあてはまらない	5. 無回答
a. 人と実際に会うことの大切さがあらためてわかった	2022年	26.3	49.2	15.9	5.7	3.0
b. 人とつながることに关してインターネットのありがたさがあらためてわかった	2022年	13.1	35.1	28.9	17.5	5.3
c. 義理で会っていた人と会わなくなってよかった	2022年	16.2	29.1	29.2	21.1	4.4
d. 人と会うのがおっくうになった	2022年	8.0	28.2	36.8	23.1	3.9

—医療崩壊に対する不安—

第20問 あなたは、医療機関が患者を受け入れられなくなる「医療崩壊」に対する不安を、どの程度感じていますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 2021年 2022年(%)
- 1. 大いに感じている …………… 39.2 40.9
 - 2. ある程度感じている …………… 46.3 44.4
 - 3. あまり感じていない …………… 12.3 12.6
 - 4. 全く感じていない …………… 1.4 1.3
 - 5. 無回答 …………… 0.8 0.8

—感染時の治療に対する不安—

第21問 あなたは、ご自分が新型コロナウイルスに感染した場合に、適切な治療を受けられるかどうか不安を感じていますか。それとも、感じていませんか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 2021年 2022年(%)
- 1. 大いに感じている …………… 41.1 39.8
 - 2. ある程度感じている …………… 44.7 42.9
 - 3. あまり感じていない …………… 12.0 <14.6
 - 4. 全く感じていない …………… 1.7 1.9
 - 5. 無回答 …………… 0.5 0.8

—ワクチン接種の回数—

第22問 新型コロナウイルスのワクチンの接種についてお聞きします。次の中から、あなたご自身にあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 2022年(%)
- 1. 1回接種した …………… 0.8
 - 2. 2回接種した …………… 10.8
 - 3. 3回接種した …………… 35.6
 - 4. 4回以上接種した …………… 45.5
 - 5. 1回も接種していない …………… 6.5
 - 6. 無回答 …………… 0.8

—今後もワクチンを受けたいか—

第23問 今後もワクチン接種を勧められたとしたら、あなたは どうしたいですか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 2022年(%)
- 1. 受けたい …………… 68.4
 - 2. 受けたくない …………… 30.1
 - 3. 無回答 …………… 1.5

—コロナの法的位置づけを下げることの賛否—

第24問 新型コロナウイルスの法律上の扱いを、季節性インフルエンザと同じ位置づけに引き下げることにについて議論されています。あなたは、引き下げることに賛成ですか。それとも反対ですか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 2022年(%)
- 1. 賛成 …………… 22.4
 - 2. どちらかといえば賛成 …………… 36.4
 - 3. どちらかといえば反対 …………… 30.0
 - 4. 反対 …………… 9.7
 - 5. 無回答 …………… 1.5

—位置づけを下げることに賛成する理由—

【第24問で「1, 2」を選んだ方にお聞きします】
第25問 それは主にどんな理由からですか。次の中から、最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 2022年(%)
- 1. 経済を回さないと困るから …………… 21.6
 - 2. 規制を受けずに自由に行動したいから …………… 14.0
 - 3. 感染しても重症化しづらくなっているから …… 30.0
 - 4. 医療機関の負担が軽くなって

- 必要な時に治療が受けやすくなるから …… 29.3
5. その他 …… 2.9
6. 無回答 …… 2.3
- (回答者=1,332人)

—位置づけを下げることに反対する理由—

【第24問で「3、4」を選んだ方にお聞きします】

第26問 それは主にどんな理由からですか。次の中から、最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 2022年 (%)
1. 規制が緩くなることで感染しやすくなるから … 33.8
2. 今の位置づけでもあまり困ることはないから …… 6.0
3. 重症化率や致死率が季節性インフルエンザより高いとみられるから …… 31.9
4. 公費で治療やワクチンを
受けられなくなる恐れがあるから …… 20.2
5. その他 …… 5.2
6. 無回答 …… 2.8

(回答者=899人)

—オンラインでしたことのあるもの—

第27問 新型コロナウイルスの感染拡大にともない、社会のさまざまな活動やサービスが、インターネットを通じて、オンラインで行われるようになってきました。あなたは、次のa～dをオンラインでしたことがありますか。それぞれについて、あてはまるものに、1つずつ○をつけてください。(cで仕事をしていない人、dで学校の授業を受けていない人は「2 したことはない」に○をつけてください。)

	(%)	1. したことがある	2. したことはない	3. 無回答
a. 行政手続き	2022年	21.3	73.4	5.3
b. 医療機関の診療	2022年	7.0	87.6	5.5
c. 仕事	2022年	21.6	72.8	5.6
d. 学校の授業	2022年	8.7	83.0	8.3

—オンライン化は望ましいか—

第28問 それでは、次のa～dについて、オンライン化が進むことを、どのように思いますか。それぞれについて、あてはまるものに、1つずつ○をつけてください。

	(%)	1. 望ましい	2. どちらかといえば、望ましい	3. どちらかといえば、望ましくない	4. 望ましくない	5. 無回答
a. 行政手続き	2021年	36.8	33.8	18.0	9.0	2.4
	2022年	32.8	33.5	17.7	12.4	3.6
b. 医療機関の診療	2021年	14.7	26.5	36.9	19.2	2.7
	2022年	13.8	27.0	33.5	22.1	3.7
c. 仕事	2021年	20.9	39.0	26.1	10.1	3.9
	2022年	19.8	34.8	23.4	16.7	5.3
d. 学校の授業	2021年	9.3	18.7	40.3	28.2	3.5
	2022年	10.6	20.3	33.7	28.8	6.6

—オンライン化でどうなるか(複数回答)—

第29問 あなたは、社会のさまざまな分野でオンライン化が進むことについて、どのようにお考えですか。次の中から、あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

- 2021年 2022年 (%)
1. 暮らしが便利になる …… 44.4 44.2
2. 移動の時間や経費を節約できて効率化を図れる …… 53.0 50.2
3. 感染症が流行しても社会の活動やサービスが停滞しない …… 33.2 30.8
4. 新しいビジネスが生まれて経済が活性化する …… 26.9 > 24.3
5. 大都市から地方への移住がしやすくなり地域が活性化する …… 30.4 29.6
6. 人と直接交流する機会が減って人間関係が希薄になる …… 57.2 > 49.0
7. 直接体験する機会が減って子どもの成長にマイナスになる …… 51.1 > 44.9
8. パソコンやスマートフォンなどの長時間の利用により健康を害する …… 36.6 > 33.3
9. 個人情報が流出してトラブルに巻き込まれる …… 38.7 39.8
10. インターネットを使いこなせない人が取り残されてしまう …… 70.7 69.6
11. その他 …… 1.6 2.3
12. 無回答 …… 1.5 1.8

—政府のオンライン化対応への評価—

第30問 あなたは、これまでの政府のオンライン化（デジタル化）の取り組みを、どの程度評価しますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

2022年 (%)

- 1. 大いに評価する 3.7
- 2. ある程度評価する 39.8
- 3. あまり評価しない 43.2
- 4. 全く評価しない 11.4
- 5. 無回答 1.9

—マイナカード有無—

第31問 政府は、オンライン化（デジタル化）の取り組みの柱として、行政手続きなどに使えるマイナンバーカードの普及を進めています。あなたは、マイナンバーカードを持っていますか。それとも、持っていませんか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

2022年 (%)

- 1. 持っている 57.0
- 2. 申請中である 5.3
- 3. 持っていない 36.6
- 4. 無回答 1.1

—マイナカードでの行政サービス利用有無—

【第31問で「1」を選んだ方にお聞きします】

第32問 あなたは、マイナンバーカードを使って、コンビニエンスストアなどで住民票の写しなどを取得することができる行政サービスを利用したことがありますか。それとも、利用したことはありませんか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

2022年 (%)

- 1. 利用したことがある 23.6
- 2. 利用したことはない 76.1
- 3. 無回答 0.2

(回答者=1,291人)

—マイナカードを持ちたいか—

【第31問で「3」を選んだ方にお聞きします】

第33問 あなたは、今後、マイナンバーカードを持ちたいと思いますか。それとも、持ちたいとは思いませんか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

2022年 (%)

- 1. 持ちたい 23.6
- 2. 持ちたいとは思わない 75.1
- 3. 無回答 1.3

(回答者=830人)

—マイナカードを持ちたくない理由（複数回答）—

【第33問で「2」を選んだ方にお聞きします】

第34問 あなたが、マイナンバーカードを持ちたいと思わない理由は何ですか。次の中から、あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

2022年 (%)

- 1. 政府に個人の活動や情報が知られるのではないかと不安だから 40.4

- 2. 登録されている個人情報が外部に流出するのではないかと不安だから 60.4
- 3. マイナンバーカードを自分が紛失してしまうおそれがあるから 36.9
- 4. マイナンバーカードを持たなくても、生活に支障はないから 68.9
- 5. マイナンバーカードを作るための手続きが面倒だから 43.3
- 6. マイナンバーカードに対するポイント付与にメリットを感じないから 24.7
- 7. 無回答 0.3

(回答者=623人)

—マイナカード個人情報の行政把握の懸念—

第35問 あなたは、マイナンバーカード制度によって、自分の個人情報が行政機関に把握されることに、どの程度懸念を感じていますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

2022年 (%)

- 1. 大いに感じている 27.3
- 2. ある程度感じている 41.6
- 3. あまり感じていない 25.2
- 4. 全く感じていない 4.9
- 5. 無回答 1.1

—サイトの閲覧履歴などの事業者把握の懸念—

第36問 あなたは、オンライン化が進むことによって、ウェブサイトの閲覧や買い物履歴などの個人情報を、サービスを提供する事業者などに把握されることに、どの程度懸念を感じていますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

2022年 (%)

- 1. 大いに感じている 31.3
- 2. ある程度感じている 47.4
- 3. あまり感じていない 17.4
- 4. 全く感じていない 2.5
- 5. 無回答 1.5

—オンライン利用による個人情報流出の危険性—

第37問 あなたは、オンラインのサービスを利用するにあたって、個人情報が流出する危険を、どの程度感じていますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。（使っていない方は、「5. オンラインのサービスを使っていない」に○をつけてください）

2022年 (%)

- 1. 大いに感じている 20.6
- 2. ある程度感じている 33.7
- 3. あまり感じていない 8.2
- 4. 全く感じていない 0.8
- 5. オンラインのサービスを使っていない 35.5
- 6. 無回答 1.2

一仕事の有無一

第38問 あなたは現在、仕事をされていますか(パートやアルバイトを含む)。

	2020年	2021年	2022年(%)
1. 仕事をしている	61.0	61.0	60.9
2. 仕事をしていない	36.8	36.4	37.3
3. 無回答	2.2	2.6	1.8

一働き方への影響一

【第38問で「1. 仕事をしている」を選んだ方にお聞きします】

第39問 あなたは、新型コロナウイルスの感染が起きてから(2020年1月以降)、次のa～dの取り組みをしましたか。それぞれについて、あてはまるものに、1つずつ○をつけてください。

	(%)	1. 今している	2. 今以前はして いていないが、	3. したことは ない	4. 無回答
a. 時差通勤	2021年	8.4	9.0	80.3	2.3
	2022年	7.6	9.2	81.0	2.2
b. テレワーク(在宅勤務を含む)	2021年	11.4	10.1	75.5	2.9
	2022年	10.6	13.1	74.0	2.3
c. オンライン会議	2021年	25.6	5.7	65.9	2.8
	2022年	23.9	10.6	63.2	2.4
d. 業務時間や営業時間の短縮	2021年	8.7	17.0	72.4	1.8
	2022年	7.4	17.1	73.5	2.0

(回答者=2021年 1,374人 / 2022年 1,379人)

一今後の働き方(複数回答)一

【第38問で「1. 仕事をしている」を選んだ方にお聞きします】

第40問 それでは、あなたがしたことがある取り組みの中で、感染が終息した後も、あなたご自身が続けたいと思うものはありますか。また、あなたの職場で定着すると思うものはありますか。それぞれについて、あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。(いずれの取り組みもしていない方は、「6. いずれもしていない」に○をつけてください)

(1) あなたご自身が続けたいと思うもの

	2020年	2021年	2022年(%)
1. 時差通勤	13.4	9.4	9.2 >
2. テレワーク(在宅勤務を含む)	13.2	13.7	14.9
3. オンライン会議	19.3	<23.9	25.2 <
4. 業務時間や営業時間の短縮	12.4	> 9.3	9.6 >

5. どれも続けたくない	10.1	8.6	9.3
6. いずれもしていない	45.0	47.0	45.8
7. 無回答	9.8	8.4	7.3 >

(回答者=1,422人 1,374人 1,379人)

(2) あなたの職場で定着すると思うもの

	2020年	2021年	2022年(%)
1. 時差通勤	9.8	> 7.4	5.7 >
2. テレワーク(在宅勤務を含む)	11.2	11.1	12.0
3. オンライン会議	20.0	<24.2	25.8 <
4. 業務時間や営業時間の短縮	7.8	6.4	6.7
5. どれも定着すると思わない	15.3	>12.5	12.3 >
6. いずれもしていない	44.4	46.9	45.7
7. 無回答	9.3	8.1	7.9

(回答者=1,422人 1,374人 1,379人)

一失業や減収の不安一

【第38問で「1. 仕事をしている」を選んだ方にお聞きします】

第41問 あなたは、新型コロナウイルスの影響によって、今後の現在の仕事を失ったり、収入が減ったりする不安を、どの程度感じていますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

	2020年	2021年	2022年(%)
1. 大いに感じている	17.0	15.4	16.0
2. ある程度感じている	36.0	33.2	31.6 >
3. あまり感じていない	32.1	<36.9	37.9 <
4. 全く感じていない	14.6	13.8	13.7
5. 無回答	0.4	0.7	0.8

(回答者=1,422人 1,374人 1,379人)

一政府の対応への評価一

第42問 あなたは、新型コロナウイルスをめぐる政府のこれまでの対応を、どの程度評価しますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

	2020年	2021年	2022年(%)
1. 大いに評価する	5.8	5.2	> 3.8 >
2. ある程度評価する	55.4	54.0	51.5 >
3. あまり評価しない	31.4	31.9	<35.7 <
4. 全く評価しない	6.6	7.1	8.1
5. 無回答	0.8	< 1.8	> 1.0

一政府に最も力を入れてほしいこと一

第43問 新型コロナウイルス対策として、今後、政府に最も力を入れてほしいことは何ですか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

	2020年	2021年	2022年(%)
1. 検査体制の拡充	17.4	> 9.3	> 4.8 >
2. 治療体制の拡充	12.5	<16.6	14.9 <
3. 治療薬やワクチンの開発	47.8	50.0	48.7
4. 経済的な支援	13.7	14.2	<20.2 <
5. 雇用の維持	2.9	< 4.3	3.2
6. IT環境の整備	0.9	< 1.9	1.7 <
7. その他	1.4	1.2	1.7
8. 特になし	1.2	1.3	< 2.2 <
9. 無回答	2.1	> 1.2	< 2.6

—感染対策が経済回復か—

第44問 あなたは、今、感染対策と経済活動の回復のどちらに力を入れるべきだと思いますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

2022年(%)

- 1. 感染対策に力を入れるべきだ 11.5
- 2. どちらかといえば、
感染対策に力を入れるべきだ 27.2
- 3. どちらかといえば、経済活動の回復に
力を入れるべきだ 45.4
- 4. 経済活動の回復に力を入れるべきだ 14.9
- 5. 無回答 1.1

—感染対策で個人の自由の制限は許されるか—

第45問 新型コロナウイルスなどの感染症対策では、人の移動や経済活動が制限されることがあります。あなたは、感染症対策で、個人の自由を制限することについて、どのように思いますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

2020年 2021年 2022年(%)

- 1. 許される 21.7 19.8 >16.1 >
- 2. どちらかといえば、許される .. 64.7 63.5 63.5
- 3. どちらかといえば、許されない 10.0 <12.4 <16.2 <
- 4. 許されない2.0 2.6 3.4 <
- 5. 無回答1.7 1.6 > 0.9 >

—2023年の国内の感染状況—

第46問 新型コロナウイルスの国内の感染状況は、来年(2023年)は、今年(2022年)と比べて、どうなると思いますか。あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

2020年 2021年 2022年(%)

- 1. 改善する 28.3 <66.4 >30.0
- 2. 変わらない 54.8 >30.2 <59.5 <
- 3. 悪化する 16.1 > 1.7 < 9.5 >
- 4. 無回答0.8 < 1.7 > 1.0

—大切だと思うようになったか—

第47問 新型コロナウイルスの感染が起きる前と比べて、あなたは、次のことを、大切にしたいと思うようになりましたか。a～fのそれぞれについて、あてはまるものに、1つずつ○をつけてください。

	(%)	1. 思うようになった	2. どちらかといえば、思うようになった	3. 変わらない	4. どちらかといえば、思わなくなった	5. 思わなくなった	6. 無回答
a. 家族	2022年	42.4	19.6	35.1	0.1	0.2	2.6
b. 仕事	2022年	14.3	14.5	60.2	2.5	1.8	6.8
c. プライベートの充実	2022年	24.0	25.1	44.8	1.8	0.4	4.0
d. 人とのつながり	2022年	26.5	27.4	39.0	2.5	0.8	3.7
e. 健康	2022年	50.4	25.9	21.3	0.3	0.1	2.1
f. お金	2022年	35.5	22.6	37.8	0.4	0.3	3.4

—生活変化はプラスかマイナスか—

第48問 感染拡大をきっかけにした生活の変化は、あなたご自身にとって、プラスの影響とマイナスの影響の、どちらが大きかったと思いますか。あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

2020年 2021年 2022年(%)

- 1. プラスの影響が大きかった2.2 < 4.0 3.1
- 2. どちらかといえば、
プラスの影響が大きかった 20.5 20.6 20.0
- 3. どちらかといえば、
マイナスの影響が大きかった .. 54.6 <59.2 59.7 <
- 4. マイナスの影響が大きかった .. 18.7 >13.4 14.5 >
- 5. 無回答4.0 > 2.7 2.7 >

—プラスの理由—

【第48問で「1, 2」を選んだ方にお聞きします】

第49問 それは主にどんな理由からですか。次の中から、最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

2022年(%)

- 1. 家族と過ごす時間が増えたから 20.8
- 2. 在宅勤務など柔軟な働き方が
できるようになったから 12.0
- 3. 手洗いなどの衛生意識が向上したから 42.2
- 4. オンラインでのやり取りなど
デジタル機器の扱いに慣れたから 4.0
- 5. 家でできる趣味など
今までとは違う楽しみを見つけれられたから 8.0

6. 旅行を控えるなどして出費が減ったから	4.4
7. その他	5.5
8. 無回答	3.1

(回答者=524人)

3. 中学生の子どもがいる	4.9	5.0	5.8
4. 中学生よりも上で 19歳以下の子どもがいる	7.8	6.8	8.3
5. 20歳以上の子どもがいる	48.1	49.4	51.3 <
6. 子どもはいない	29.9	31.7	29.5
7. 無回答	2.6	2.1	3.0

—マイナスの理由—

【第48問で「3、4」を選んだ方にお聞きます】

第50問 それは主にどんな理由からですか。次の中から、最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

2022年(%)

1. マスクの着用や頻繁な手の消毒など 面倒なことが増えたから	29.8
2. 会いたい人に会えなかったから	24.3
3. 旅行やイベントや会食に行けなかったから	23.8
4. 家事や育児や介護の負担が増えたから	1.8
5. 仕事の負担が増えたから	3.3
6. 経済的に生活が苦しくなったから	10.9
7. その他	3.0
8. 無回答	3.0

(回答者=1,681人)

—コロナで経済格差広がったか—

第51問 あなたは、今回の新型コロナウイルスの感染拡大で、日本の中での経済的な格差はどの程度広がったと思いますか。次の中から、あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

2022年(%)

1. かなり広がった	39.9
2. ある程度広がった	48.3
3. あまり広がっていない	8.3
4. ほとんど広がっていない	1.0
5. 無回答	2.4

—生活満足度—

第52問 あなたは、今の生活に満足していますか。それとも、不満ですか。あてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

2020年 2021年 2022年(%)

1. 満足している	8.5	9.1	<11.2 <
2. どちらかといえば、満足している	40.2	<45.6 <	<50.3 <
3. どちらかといえば、不満だ	39.2	>35.0	>29.2 >
4. 不満だ	9.9	8.4	7.3 >
5. 無回答	2.1	1.9	2.0

—性別—

第53問 (サンプル構成参照)

—生年—

第54問 (省略)

—子どもの有無(複数回答)—

第55問 あなたには、お子さんがいますか。次の中から、あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

2020年 2021年 2022年(%)

1. 未就学の子どもがいる	9.4	> 7.5	6.5 >
2. 小学生の子どもがいる	9.8	8.5	8.1 >

—同居家族の有無—

第56問 あなたは、現在、ご家族(パートナーを含む)と同居されていますか。

2020年 2021年 2022年(%)

1. 同居している	80.7	80.9	80.1
2. 同居していない	17.7	17.4	17.7
3. 無回答	1.7	1.8	2.3

—職業—

第57問 (サンプル構成参照)

—雇用形態—

第58問 (サンプル構成参照)

—世帯収入—

第59問 (サンプル構成参照)

—インターネット利用程度—

第60問 あなたは、ふだん、インターネットをどのくらい利用していますか。メールやSNS*の利用も含めてお答えください。

* Twitter, Facebook, LINE, Instagramなどのソーシャルネットワークサービス

2020年 2021年 2022年(%)

1. よく使っている	47.6	45.8	46.7
2. ある程度使っている	19.8	<22.7	22.7 <
3. あまり使っていない	10.6	<13.4	>10.7
4. 全く使っていない	21.0	>17.3	18.2 >
5. 無回答	1.0	0.8	< 1.7 <

—新型コロナについて思うこと—

第61問 新型コロナウイルス感染症に関して、思うことがありましたら、何でもご自由にお書きください。(自由回答、省略)

〈サンプル構成〉

	全体	性		男性						女性					
		男性	女性	18～29歳	30代	40代	50代	60代	70歳以上	18～29歳	30代	40代	50代	60代	70歳以上
2020年	2,331人	1,040	1,291	118	114	177	172	175	284	148	143	227	188	214	371
	100.0%	44.6	55.4	5.1	4.9	7.6	7.4	7.5	12.2	6.3	6.1	9.7	8.1	9.2	15.9
2021年	2,253人	1,070	1,183	127	113	172	184	201	273	127	120	208	184	178	366
	100.0%	47.5	52.5	5.6	5.0	7.6	8.2	8.9	12.1	5.6	5.3	9.2	8.2	7.9	16.2
2022年	2,266人	1,066	1,200	100	89	174	217	178	308	106	121	184	219	202	368
	100.0%	47.0	53.0	4.4	3.9	7.7	9.6	7.9	13.6	4.7	5.3	8.1	9.7	8.9	16.2

	全体	地域						都市規模				
		北海道・東北	関東・甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄	特別区と人口100万以上の市	人口30万以上の市	人口10万以上の市	人口5万以上の市町村	人口5万未満の市町村
2020年	2,331人	286	895	355	333	214	248	500	519	587	345	380
	100.0%	12.3	38.4	15.2	14.3	9.2	10.6	21.5	22.3	25.2	14.8	16.3
2021年	2,253人	264	858	356	338	192	245	483	493	552	351	374
	100.0%	11.7	38.1	15.8	15.0	8.5	10.9	21.4	21.9	24.5	15.6	16.6
2022年	2,266人	266	879	343	355	204	219	497	499	558	331	381
	100.0%	11.7	38.8	15.1	15.7	9.0	9.7	21.9	22.0	24.6	14.6	16.8

	全体	職業										
		農林漁業者	自営業者	販売・サービス職	技能・作業職	事務・技術職	経営者・管理職	専門職・自由業・その他	主婦・主夫	生徒・学生	無職	無回答
2020年	2,331人	37	137	270	284	466	95	65	411	101	405	60
	100.0%	1.6	5.9	11.6	12.2	20.0	4.1	2.8	17.6	4.3	17.4	2.6
2021年	2,253人	39	148	233	294	409	95	67	365	102	409	92
	100.0%	1.7	6.6	10.3	13.0	18.2	4.2	3.0	16.2	4.5	18.2	4.1
2022年	2,266人	28	138	248	297	396	102	81	368	79	435	94
	100.0%	1.2	6.1	10.9	13.1	17.5	4.5	3.6	16.2	3.5	19.2	4.1

	全体	雇用形態 ※「勤めている」と回答した人							
		正規雇用	非正規雇用	その他・無回答	男性		女性		その他・無回答
					正規雇用	非正規雇用	正規雇用	非正規雇用	
2020年	1,100人	657	384	59	420	118	237	266	59
	100.0%	59.7	34.9	5.4	38.2	10.7	21.5	24.2	5.4
2021年	1,003人	617	373	13	407	134	210	239	13
	100.0%	61.5	37.2	1.3	40.6	13.4	20.9	23.8	1.3
2022年	1,017人	613	389	15	401	122	212	267	15
	100.0%	60.3	38.2	1.5	39.4	12.0	20.8	26.3	1.5

	全体	世帯収入			
		300万円未満	300～600万円未満	600～900万円未満	900万円以上
2020年	2,331人	599	820	457	295
	100.0%	25.7	35.2	19.6	12.7
2021年	2,253人	617	815	410	297
	100.0%	27.4	36.2	18.2	13.2
2022年	2,266人	634	837	385	278
	100.0%	28.0	36.9	17.0	12.3

	全体	中学生以下の子どもの有無							
		あり	なし	無回答	男性		女性		無回答
					あり	なし	あり	なし	
2020年	2,331人	422	1,848	61	175	841	247	1,007	61
	100.0%	18.1	79.3	2.6	7.5	36.1	10.6	43.2	2.6
2021年	2,253人	343	1,863	47	148	901	195	962	47
	100.0%	15.2	82.7	2.1	6.6	40.0	8.7	42.7	2.1
2022年	2,266人	350	1,849	67	161	874	189	975	67
	100.0%	15.4	81.6	3.0	7.1	38.6	8.3	43.0	3.0